

第27回 全国街路事業 コンクール応募資料

平成27年1月

応募者名:北海道 旭川市

事業の名称:旭川圏都市計画道路

3・3・14号 昭和通整備事業

実施都市名:北海道旭川市

事業目的

当路線は神楽地区の国道237号を起点に、旭川市中心市街地を経由し、国道40号線を結ぶ幹線街路です。

中心市街地と神楽地区は一級河川忠別川やJR軌道により南北に市街地が分断されている状況でした。中心市街地の一体的な整備事業である旭川駅周辺開発計画、「北彩都あさひかわ」の実施に伴い、鉄道高架事業や旭川駅周辺区画整理事業との連携により、クリスタル橋を新設することで、市街地の分断を解消し、旭川駅周辺中心市街地の一体的な発展が図られます。

事業概要

・事業名称:旭川圏都市計画道路 3・3・14号昭和通整備事業

・路線名:市道昭和通2号線

・事業箇所:北海道旭川市神楽4条6, 7丁目～宮前通西

・事業延長:L=790m(橋梁部延長L=191m)

・幅員:W=30.0m(W=橋梁部26.5m)

・事業費:3,768百万円

・事業実施期間:平成17年～平成25年(平成25年11月1日橋梁部開通)

・本事業は、昭和通整備の一環として、忠別川を跨ぐクリスタル橋の整備を行っています。これにより、神楽地区の4車線化整備及びJR旭川駅鉄道高架事業、旭川駅周辺土地区画整理事業とあわせ、昭和通の整備が完了したことになります。

整備にあたっては、旭川市で架けた長大橋としては初となるラーメン構造形式を採用しコスト縮減を図るとともに、景観検討を本事業の上位計画となる「北彩都あさひかわ」まちづくり推進会議にて行い、隣接する平成23年4月に開通した氷点橋と姉妹橋であることを印象付けるため、構造形式はPC橋を採用し、「活発な妹」という位置づけの元、都市的で形自体が完結した美しさを有したデザインを有する橋として整備をしました。

本事業により、昭和通と平行する国道237号(忠別橋)、道道新開旭川線(新神楽橋)の負担を軽減し、あわせて旭川市中心部と神楽地区とのアクセス向上による賑わいの創出を図ります。

昭和通(クリスタル橋)の整備効果アピール資料

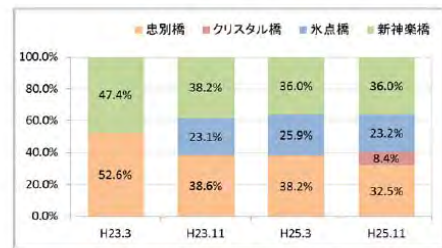
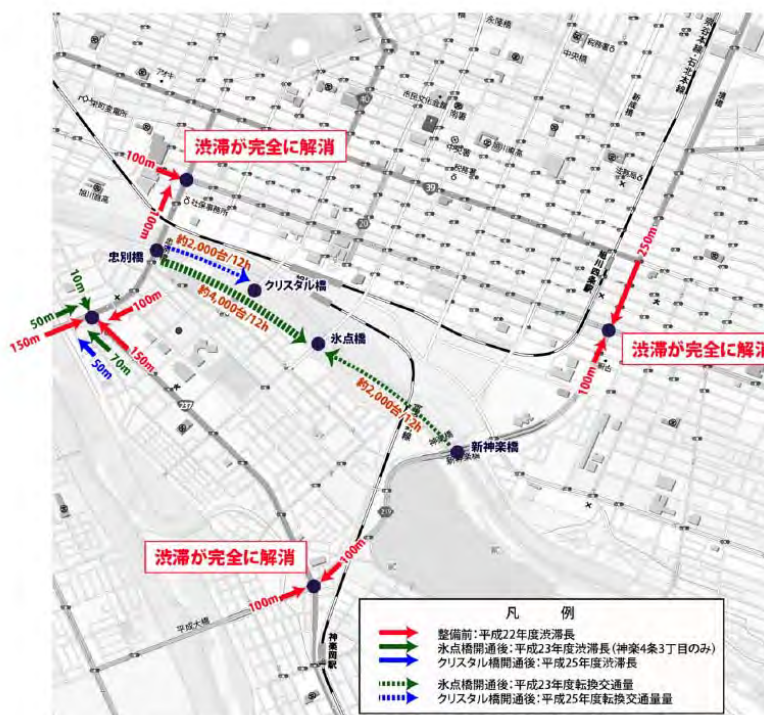


図1 各橋梁の利用構成比の変化



図2 忠別川スクリーン交通量の推移

<供用開始日>
 氷点橋:平成23年4月1日供用
 クリスタル橋:平成25年11月1日供用

○事業概要

事業名:旭川圏都市計画道路
 3・3・14号 昭和通整備事業
 路線名:市道昭和通2号線
 事業箇所:旭川市神楽4条6・7丁目～宮前通西
 事業延長:L=790m
 幅員:W=30.0m(橋梁部26.5m)
 総事業費:3,768百万円
 事業期間:H17～H25年

○交通量調査結果

供用前 0台/12h
 供用後 3,970台/12h

忠別川スクリーン交通量において2,000台増
 国道237号線交差点において渋滞長が減少
 大雪通において渋滞が完全解消

「整備効果」

- クリスタル橋と並行する忠別橋、新神楽橋の交通量が1割～3割減少
- 忠別川をスクリーンとする交通量は約2,000台/12h増加
- 神楽4条3丁目交差点の渋滞長が減少(最大渋滞長:150m→50m)
- 昭和通並行区間の旅行速度が向上
 国道237号:整備前22.2km/h→整備後24.9km/h(中心市街地部方向)
 道道新開旭川線:整備前23.5km/h→整備後25.0km/h(神楽方向)

「その他の事業効果」

- 神楽地区から旭川駅中心市街地部への徒歩・自転車による所要時間大幅短縮
 →歩行者・自転車利用者増加(バス・自動車から徒歩・自転車利用への転換)
- 中心市街地部へのアクセス性向上により、神楽地区における住宅地での地価上昇
 →平成26年度基準地価(平成26年7月):前年度比2.5%アップ
- 道の駅あさひかわの利用客増加 H25利用者数753,000人(対前年比 17.1%増)
 →H25年4月～10月 前年比96.5% 開通後H25年11月～3月 前年比 170%
- 昭和通を利用した新規バスルート開設による利便性の向上、バス運用コスト縮減
- H27年4月に駅前で大規模商業施設がオープンすることによる交通量増加(見込み)

事業前写真

平成13年7月撮影



撮影：(株)日興ジオテック

平成16年10月撮影



平成16年10月撮影



事業後写真

平成26年 6月撮影



撮影：(株)日興ジオテック

平成25年11月撮影

平成26年7月撮影



